

## 第67回日本矯正歯科学会大会 ラウンド テーブル ディスカッション (RTD) 各テーブルのご案内

### 会員各々

拝啓、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

こちらに第67回日本矯正歯科学会大会 RTD のご案内をさせていただきますので、皆様奮ってご参加下さい。

**参加費 3,000円 (昼食代を含む。留学生は1,500円。)**

参加はすべて事前登録となります。当日登録は行いません。

受付票にて、決定テーブルと振込先をご連絡致しますので期日までにお振込下さい。

大会参加登録費と一緒に振込まいようご注意下さい。

**申込方法 インターネットでのオンライン申込(<http://square.umin.ac.jp/jos-am/>)**

FAXでの申込みをご希望の方は、事務局までご連絡のうえ、申込用紙をお取り寄せ下さい。

(学術大会事務局: TEL. 03-3597-1127 FAX. 03-3597-1097)

**申込期限 2008年 6月 12日(木) ~ 2008年 7月 25日(金)**

キャンセルの受付はできかねます。ご都合の悪い場合は、代理出席者をご手配下さい。

代理出席者を確保できない場合でも参加費の返金はできかねますので予めご了承下さい。

また、同一所属機関から同じテーブルに多数のお申し込みがあった場合、

他の参加者の方を優先することがありますのでご了承ください。

各テーブルのご案内 (大会ホームページ <http://square.umin.ac.jp/jos-am/> でもご覧いただけます。)

<b>1 「矯正治療中に起こる口腔顔面痛」</b>
<b>野田 隆夫</b> 野田矯正歯科クリニック
矯正治療中に、冷水痛、口内炎、肩こり、頭痛などが現れる症例がある。特に、成人の矯正治療中には、冷水痛、口内炎に遭遇することは多く、時には、肩こり、頭痛という口腔顔面痛にも遭遇する。これらの原因は多岐に渡るが、咬合性外傷が原因であることが多い。そこで、今回、これらの症状が咬合性外傷と診断された症例を供覧して、治療について説明する。これらをもとに、臨床的見地から活発な意見交換が行えれば幸である。

<b>2 「トリートメント・コーディネーターを育てよう！」</b>
<b>富永 雪穂</b> アルファ矯正歯科クリニック
矯正歯科医が診療に集中して質の高い治療結果を得るために、矯正歯科医と患者さんとの間に立ち、明確で分かりやすい説明と同意を得るためのシステムが必要である。その一環としてトリートメント・コーディネーターの必要性が高まっている。わが国では一般的ではないこの新しい専門職の確立とその育成に関して意見を交換したい。

<b>3 「総合病院における矯正歯科医の役割」</b>
<b>森下 格</b> 特定医療法人 雪ノ聖母会聖マリア病院 矯正歯科
総合病院での矯正歯科の特徴は医科との連携につきる。口蓋裂や先天奇形症候群のチーム医療、他疾患有するなかでの矯正治療に加えて、救急での外傷歯の整復固定、外傷陳旧例の咬合回復など、医科歯科の領域を超えて密接に同時進行的に機動的に邁進する現場がそこにある。矯正歯科医の雇用創出のため地域拠点病院に矯正歯科医雇用を呼びかけよう。

<b>4 「矯正治療後の再治療を考える」</b>
<b>亀井 照明</b> 亀井矯正歯科医院
矯正治療後の保定中あるいはその後に、後戻りが生じたり、初診時とは異なる不正が生じ、再治療を余儀なくされることがある。これは術者側にも患者側にも決して好ましいことではない。本テーブルでは、矯正治療後に再治療が必要となるさまざまな要因について討論し、いかにして再治療を減らすことができるのか意見を交換する。

<b>5 「小児期における歯列の側方拡大の臨床」</b>
<b>佐橋 喜志夫</b> さばし矯正小児歯科
歯列の側方拡大は、小児期の不正咬合の治療に広く用いられている。この治療には、さまざまな考え方に基づく多様な手法がある。しかし、これらの手法は充分なコンセンサスが得られていない。そこで、小児期における歯列の側方拡大の臨床、特に治療の意義と手法および治療効果などについて討議したいと考える。

<b>6 「歯科矯正学における三次元的な分析法について考える」</b>
<b>寺嶋 雅彦</b> 九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座咬合再建制御学分野
近年, Computed Tomography などの高性能化や画像処理技術の発達により, 詳細な画像診断を行なうことが可能になってきました。そこで, 今回, 頸顔面骨格および顔面軟組織形態の三次元的な分析方法をご紹介することで, 皆様と今後の歯科矯正学における分析・診断などについて話し合いたいと思います。

<b>7 「頸のずれと態癖について学校検診を利用し考える」</b>
<b>里見 優</b> さとみ矯正歯科クリニック
頸のずれと態癖について学校検診時に調査したところ 313 名中 72 名(23.0%)に頸のずれが認められた。横向き寝・うつぶせ寝と頸のずれとの関連性も認められ、これらが顔面成長、顔面非対称に影響を与えることが示唆された。不正咬合予防のために態癖に目を配っていく必要があると考える。また学校検診、指導のあり方についても問い合わせをしてみたい。

<b>8 「レベリングーアライニング考」</b>
<b>古賀 正忠</b> 古賀矯正歯科クリニック
プリアジャステッド アプライアンスを用いた矯正治療において、レベリングステージにおけるメカニクスの要点について話し合いたい。またこの時期は矯正患者にとって機能的、生理的、心理的に負荷がかかると思われ、そのような点についても合わせて検討してみたいと考えている。

<b>9 「矯正専門歯科技工士の現状を知り育成を考える」</b>
<b>武森 政文</b> 大阪歯科大学附属病院
昨今、低迷を感じる歯科技工界のなかで、矯正歯科専門技工士を目指す人たちの技術習得の機会が少ないと感じ、正しい基礎的技術の伝承と学術的知識の研鑽の環境が整っていないことなどが指摘され、その必要性を痛切に感じる。そこで、専門歯科技工士に求められるものは何か、後進の育成にどう対処すべきかなど、参加者と共に考えたいと思う。

<b>10 「態癖改善が矯正臨床に及ぼす効果について」</b>
<b>小川 晴也</b> 小川矯正歯科
歯の干渉は、習慣的な頬杖や睡眠態癖によっても引き起こされることが知られている。今回は、習慣的な態癖の改善指導のみで咬合の改善を認めた症例や、矯正治療との併用でより効率的な治療を行った症例を持ち寄り、態癖改善のためのノウハウについて活発な意見交換を行いたいと思う。

<b>11 「パッシブライゲーションを考える」</b>
<b>武内 豊</b> たけうち矯正歯科クリニック
歯と歯周組織に侵襲の少ない、痛みの少ない、効率的な矯正治療を行なうためには、弱い矯正力で歯を移動する必要がある。そのため、ブラケットとアーチワイヤーの間の摩擦を可及的に小さくするために以下の対策がとられてきた。: 従来の結紮法での工夫、従来のブラケットに組み込む結紮補助具による工夫、セルフライゲーションブラケットの導入。今回、それらの長所、短所、適用範囲、限界などについて討論してみたいと考えている。

<b>12 「口腔筋機能療法の取り組みとその応用」</b>
<b>今村 美穂</b> miho矯正歯科クリニック
頭蓋、顎顔面のみならず全身にまで目を向けた機能障害の有無を観察する重要性が近年高まっている。そこで、矯正治療における口腔周囲の機能的な問題を姿勢、呼吸、発音、咀嚼嚥下の 4 つの視点から指導している取り組みを紹介する。さらに今後の応用についても皆様と議論できれば幸いである。

<b>13 「リン酸カルシウム系新世代審美ブラケット」</b>
<b>小坂 肇</b> 小坂矯正歯科
リン酸カルシウム系ブラケットは、1)リン酸カルシウムが主成分のため天然歯に近い結晶構造と審美性を有す。2)天然歯に近い硬度のため歯や矯正線を傷つけない。3)矯正線に対する滑りが良く、空隙閉鎖期間の短縮傾向が認められる。以上が、本学会において発表されている。これらの内容(第1 ~ 4報)を総括し、今後望まれる審美ブラケットの機能について話し合いたいと思う。

お問い合わせ先 :

第 67 回日本矯正歯科学会大会事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-7-2 (株)インターングループ内

TEL : 03-3597-1127 FAX : 03-3597-1097

<jos-meeting2008@intergroup.co.jp>